

# 1部 神との人格的関係の確立

## 3章 聖書

### ●人格的関係は言葉によるコミュニケーション

ヨハネ1：1 「ことばは神であった」

「ことば」は、人格そのもの。人格的関係とは、「ことば」によるコミュニケーション。

人格的関係が壊れる時は、言葉が壊れる時。

神との人格的関係の破壊（バベルの塔 創世記11：1～9）は、他者との人格的関係の破壊へ。

### ●聖書とは II テモテ3：16

神の靈感によって書かれた。誤りなき神の言葉。完成された神の言葉。唯一の正典。

成立：旧約聖書（ヘブル語）が完成したのが、AD1世紀ヤムニヤ会議で決定された。

新約聖書（ギリシャ語）が成立し、正典とされたのはAD4世紀（397年）のカルタゴ会議である。

内容：神による人類救済の歴史（救済史）

中心：イエス・キリスト ヨハネ5：39

### ●聖書の構造

旧約39巻 新約27巻

### ●聖書（神の言葉）への姿勢

読む 論理として正しく理解する。正しい解釈。

聴く 今語られている神のことばとして聴く。聴くように読む。

「今の私に、主は何を語っておられるのか」

応答 応答して初めて土の中に深く根ざし、実を結ぶ。

### ●御言葉が示されるとは？

その時だけ、その人に、聖霊によって示される神の言葉。

詩篇119：105、130、133

### ●正しい聖書解釈のポイント

福音的に解釈する。（救済史として解釈する、キリストを通して）

解釈の歴史を尊重する。

文脈の中で解釈する。

歴史的背景、文化的背景を踏まえる。

指示的な御言葉に関しては、実行する時、方法を吟味する。（自分の正直な思い、周りの助言、状況）

自分以外の人への御言葉の示しは、解釈、伝える方法、時を、慎重に判断する。